

平成25年度 活動報告
福島は、いま
千葉大生の活動を通して



平成25年度 活動報告

福島は、いま ～千葉大生の活動を通して～

目 次

あいさつ.....	2
センター紹介.....	3
平成25年度活動年表.....	4
福島は、いま ～ 千葉大生の活動を通して ～	
① 富岡小中学校との交流	6
② 南相馬市での活動	12
③ 千葉県在住の浪江町民への支援	16
④ 大学祭企画「3.11を想う」.....	19
その他の支援センター年間活動紹介.....	24
全学FD『今、あらためて「千葉大生を知る」』資料	26
ボランティア登録者の活動状況.....	38
あとがき.....	39

学生のボランティア活動の意義を確かめる

理事（教育担当） 長 澤 成 次

2014年3月であの東日本大震災から3年を迎えた。

警察庁・復興庁等（2013年11月8日現在）によれば人的被害は、死者15883名、行方不明2651名、負傷者6150名、震災関連死2688名。また、復興庁「復興の現状」（平成26年1月17日）によれば、避難者数は約27万4千人、原発事故が起こった福島県では県内への避難者数約9万2千人、県外への避難者数約5万1千人、計約14万2千人。福島県から千葉県に避難されている方は2014年1月31日現在で3962名にのぼっている。震災の復旧・復興をめぐるはいまだ深刻な事態が続いていると言わざるを得ない。

千葉大学では、この間、全学をあげて東日本大震災の被災地に対してさまざまな支援を展開してきた。3年前の2011年3月末には「千葉大学ボランティア活動支援センター」（センター長 山内正平教授）をたちあげ、継続的に支援活動を行ってきた。その内容については、『3.11を想う—東日本大震災と若者たち』（2012年3月）や『千葉大学ボランティア活動支援センター 平成24年度活動報告』（2013年3月）に詳しい。そして平成25年度の活動をまとめたのが本報告書である。

福島県富岡第一小学校・第二小学校とは校長先生が千葉大学教育学部の出身ということもあって震災時からの支援・交流が続いている。2014年2月22日には学生たちの企画によって富岡小学校児童28名のディズニーランドへの招待も実現している。このような継続的な取り組みは、富岡の子どもたちにとっては「千葉大のお兄さん・お姉さん」としてしっかりと記憶に残っていくにちがいない。

ボランティア活動の持つ意義は学生にとってはまちまちであるかもしれない。しかしながら、ボランティア活動の自主性・自発性を瞳のように大事にしながら、自分にとってのボランティア活動とは何かを問い続けることによって、大学における学問研究や生き方にリンクしてくる可能性は十分ある。この3年間、ボランティア活動支援センターで活動する学生たちをみていて、そのような意味で輝く学生たちを垣間見ることができたことは、私にとってもうれしいことのひとつであった。

最後に、千葉大学の学生たちをいつも温かく迎えてくださった関係者をはじめ、センターの活動にご協力をくださった皆様へ心からの御礼を述べたいと思います。ありがとうございました。

2014年3月19日

センター紹介

1. センターの設置目的, 概要

東日本大震災の被災地では救援・復興活動が行われており、長期にわたってボランティアが必要であると予想された。そこで我が千葉大学ではボランティア活動を希望する学生や教職員を支援する事を目的とし、2011年3月末に「千葉大学ボランティア活動支援センター（以後文中ではセンターと略）」を設置した。

センターは「ふれあいの環」学生総合支援センター（以下文中ではふれあいの環と略）内にあり、常時在室しているふれあいの環職員の窓口として対応している。活動の企画や運営は、大学教職員と、ふれあいの環で活動する学生支援団体「ボランティア活動支援センター学生スタッフ（旧:ボランティア・コーディネーター）」を中心とした有志学生によって進められる。

千葉大学の理念「つねに、より高きものをめざして」を念頭におき、ボランティア活動を通じた社会貢献の推進、学生の人間的成長の支援をミッションとして活動を行っている。

2. センターの活動

本センターの主な活動は、下記のとおりである。

- 1) ボランティア活動の企画
- 2) ボランティア募集情報の収集、ボランティア希望者への情報提供等の支援
- 3) ボランティア活動保険の加入等の活動支援
- 4) ボランティア活動用品の貸与・支給

3. ボランティア活動支援センター学生スタッフ

本センターでは、教職員とともに学生スタッフがピアサポーターとして活動している。学生スタッフの主な役割は以下のとおりである。

- 1) 大学内に集められたボランティア情報を学生たちに発信すること
- 2) ボランティア活動支援センターに依頼がきたボランティアの運営・企画をすること
- 3) 学生が発案した企画を運営すること

4. ボランティア登録状況（H26.3.20 現在）

	計	学 生		教 員		職 員	
		男	女	男	女	男	女
登録完了者	320	123	171	3	2	11	10

平成25年度活動年表

月	日	活 動 内 容
平成25年 3月	11日	『忘れない3.11』参加
4月	3, 4, 8日	健康ガイダンス参加
	9, 10日	ビジョンナビセミナー参加
	11, 16, 18, 23, 25, 30日	団体説明会開催
5月	17, 18日	富岡小学校・幼稚園運動会参加
		第1回ボランティア交流会開催
	29日	 
6月	7日	あかりんアワー発表
	28日	ふれあいの環交流会開催
7月	10日	校内清掃活動参加
	11日	団体説明会開催
	12日	第2回ボランティア交流会開催
8月	6, 7日	富岡小中高再会の集いの会
9月		ボランティアツアー実施（福島県南相馬市）
	26～29日	 
11月	2, 3日	大学祭において写真展などを開催
	16日	「縁Joy・東北 in マザー牧場」に参加
12月	14日	NP0クラブ実行委員会
平成26年 1月		メールマガジン配信開始
	25日	第1回花見川区区民対話会参加
	31日	豆まき集会（富岡小学校）  
2月	22日	富岡小学校との交流事業
	23日	NP0クラブ主催「縁Joy」参加

福島は、いま

～千葉大生の活動を通して～



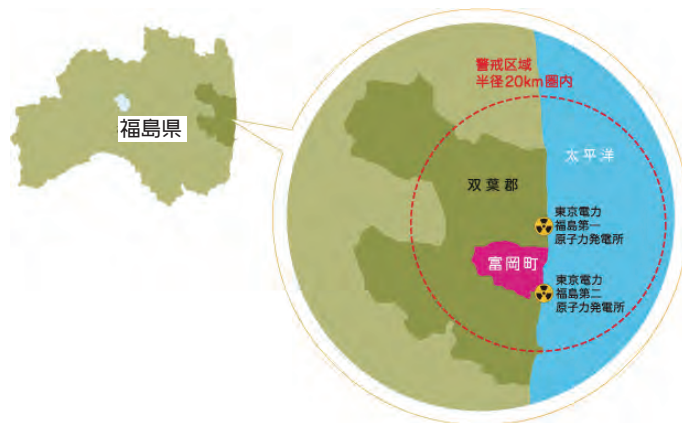
富岡小中学校との交流

1. 富岡町の基本情報

人口：約 16,000 人

面積：68.47km²

富岡町は福島県の太平洋側、浜通り地方の中央に位置し、東京電力福島第一原子力発電所と第二原子力発電所の間にある。



画像：富岡インサイド <http://www.tomioka.jpn.org/>

2. 富岡小中について

富岡第一、第二小学校の校長先生が千葉大学教育学部卒業生で、三春校開校にあたって千葉大学のOBに支援をよびかけたことがきっかけで千葉大学との交流が始まった。

活動の様子（左：豆まき集会、右：富岡の集い）



3. 三春校について

富岡町では、避難先が福島県三春町に近い生徒を集めて、2011年9月1日、三春町の曙ブレーキ工業の工場跡地に仮校舎を設け、富岡町小中学校三春校として開校した。

富岡小学校・幼稚園運動会

平成25年5月17日、18日
参加者：学生・教職員26名
場 所：福島県田村市総合体育館



千葉大学の学生、教職員が富岡幼稚園、富岡第1・第2小学校合同春季運動会に参加し、当日の事前準備から各競技の補助を行いました。

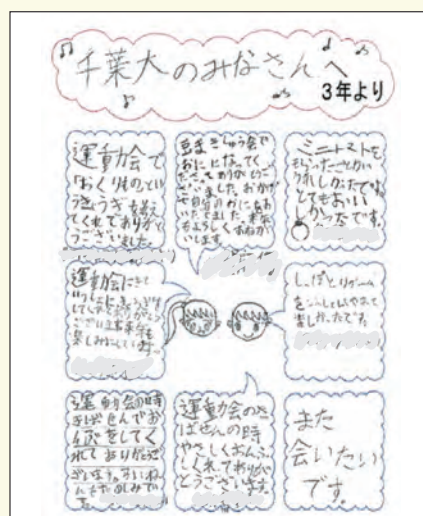
紅白に分かれ、子どもたちと一緒に全力をつくしました。
今年は千葉大生考案の『おくり物』という競技も行われ、大変盛り上がりしました。

運動会後、届けられた
子どもたちからの手紙

⇒

上段：1年生、3年生

下段：4年生、5年生、6年生



平成25年度富岡町小・中・高校生 『再会の集い』 ～希望のサクラを咲かせよう2013～

平成25年8月7日
参加者：学生19名、教職員7名
場 所：ビッグパレットふくしま

東日本大震災及び原発事故に伴い、全国各地で避難生活を余儀なくされている福島県富岡町の小中高生の再会の場、そしてふるさとの再生復興につなげることを目的として開催されました。



当日の記念事業『希望のサクラを咲かせようプロジェクト』のお手伝いをしました。

富岡町のシンボルである『桜』を、パステルなどを使って作った参加者の手形で再現しました。

友達との再会を喜ぶ子どもたちの姿を見ると、1日でも早く彼らのふるさが復興し、元に戻るようになってほしいと切に思いました。

富岡小学校豆まき集会

平成26年1月31日
参加者：学生11名
教職員3名

富岡小学校の学校行事である豆まき集会に参加させていただきました。

子供たちは鬼の格好をした学生や教職員に負けじと落花生を投げていました。



今年は豆まきの前に、子供たちと雪遊びをしました。雪合戦やそり滑りで子供たちとの交流を深めました。

子供たちの元気な様子を見て私たちも元気をもらいました。この子供たちのために何ができるのだろう、と考えさせられました。

富岡小学校児童と過ごす 東京ディズニーランド

平成26年2月22日

参加者：学生31名・教職員3名

場 所：ディズニーランド

富岡小学校の児童 28 名に
千葉大生がガイドスタッフと
して付き添い、ディズニーラ
ンドに行きました。

企画から学生が行い、
しおり作りや実地調査も
行いました。



当日、学生は、本部・記録・ガイ
ドスタッフに分かれて子供たちが楽
しめるよう、サポートしました。



普段あまり行かないディズニーランドを満喫しているようでした。



最後に子供たちから、お礼の言葉と寄せ書きをもらいました。最後には疲れ切ってしまった子供もいましたが、子供たちにとっても楽しい1日になっていれてほしいと心から思います。

学生主体の企画は今回が初めてで至らない部分も多かったのですが、多くの方からの支援のおかげで実現することができました。学生にとっても貴重な体験となりました。このような支援を今後も続けていきたいと思いました。

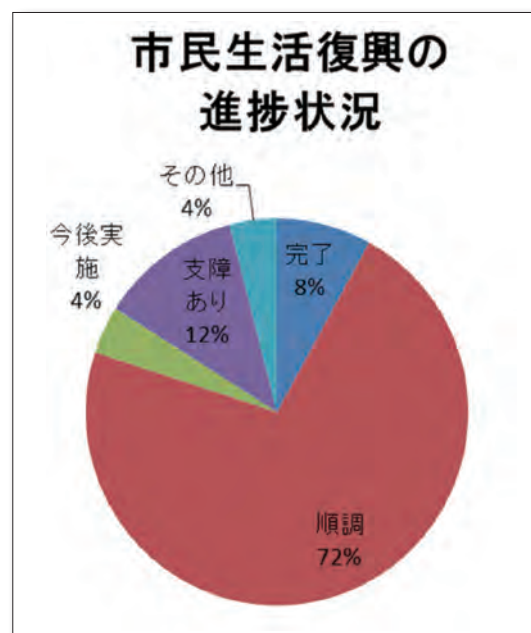
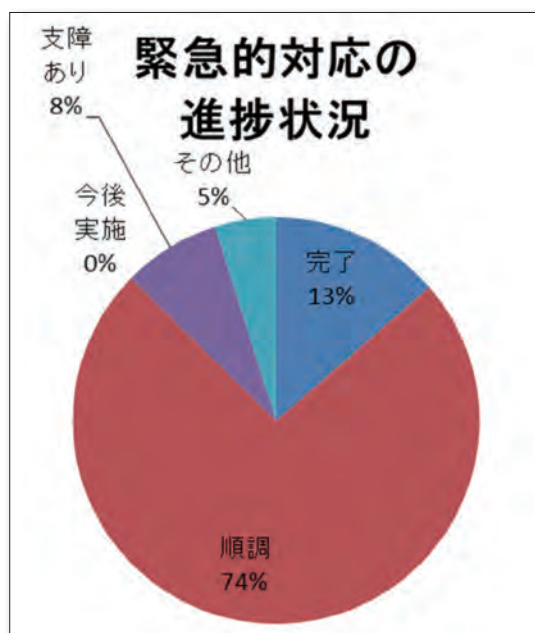
南相馬市での活動

1. 南相馬市の基本情報

人口：約 64,000 人

面積：398.5 km²

平成18年1月1日、旧小高町、旧鹿島町、旧原町市が合併して誕生した。福島県の太平洋側、浜通り地方北部に位置する。東日本大震災の際発生した津波に海岸線から約2km付近までの地域が呑み込まれた。現在も支援を必要とする状態にある。



2. 南相馬市について

南相馬市は復興計画において平成 27 年までを復帰・復旧に重点を置く期間とし、避難生活の解消を目標にしている。道路や上下水道などのインフラについては概ね整備が完了しており、除染作業も遅れてはいるが少しずつ進んでいる。

上記のグラフは左が「放射性物質による汚染対策」、「市民生活の応急的復旧」の分野、右が「すべての市民が安心して暮らすことのできるまちの再生」、「コミュニティ、地域の絆の復活」の分野の復興進捗状況を表している。

引用：南相馬市ホームページ <http://www.city.minamisoma.lg.jp/index.cfm/1,html>

第4回ボランティアツアー

平成25年9月26日～29日
参加者：学生32名、教職員12名
場 所：福島県南相馬市小高区

9月末日に第4回となる東北ボランティアツアーが開催されました。今年は例年と異なり、特に復興が遅れている福島県南相馬市に行ってきました。

事前研修

ボランティアツアーを安全かつ有意義なものとするため、被災地や装備について説明や班員との顔合わせ等を行いました。



出発～活動初日

9月26日19時、バスに乗り大学を出発し、翌日の午前2時に南相馬市の旅館に到着しました。

初日は2つの活動場所に分かれての活動となりました。9時から16時まで、一方では家具の運び出しや家の掃除を43名で行い、もう一方では草むしりや竹の枝の除去・分別を行いました。

活動から帰った後はリフレクションを行いました。それぞれが活動の上手かった点や反省点、感想等を整理し、全体で共有しました。



活動2日目～解散

2日目はグループに別れることなく全体での活動となりました。作業時間は初日同様9時から16時までで、家の物ものの整理・破棄や倉庫の清掃などを行いました。

前日に全体で共有した情報や反省が活かされ、スムーズかつ丁寧な活動が出来ました。



2日目も初日同様、活動から帰った後はリフレクションを行いました。

28日21時、再びバスに乗り旅館を出発。千葉大学での解散は、29日午前5時でした。

事後研修

ツアー終了の翌日には、大学に集まり事後研修を行いました。

参加者は日常生活に戻った上でツアーでの体験を振り返り、震災やボランティアについての考えを深めました。



～参加者の感想～



○復興の状況や震災の被害について

バス移動の際、市役所へ向かう間など、田んぼに自販機や車などがある光景は、ニュースなどで見たことはあったが、実際に自分の目でみるとショックが大きかった。

田んぼや畑、持ち家に財産、場合によっては仕事や家族を失って違う土地で暮らすということがどんなに大変だろうかと思った。震災は精神的にも人を壊していくのだと思った。

一見住めそうに見える住宅なのに、ネズミなどの二次災害がひどく、とても住めたものではなかった。



旅館の近くの建物の1階は津波ですべて流されており、震災の被害の大きさを改めて実感した。ふつうの生活が一瞬で奪われたことを想像すると、恐ろしさと同時に日々の生活に感謝しなければならないと思った。

震災から2年半が経ったが、がれきの山もまだ撤去しきれなくて、まだまだ復興していないことに驚いた。震災前のように戻るにはかなりの時間が必要だと感じた。

物理的な支援もまだまだ必要であるが、住民の方の心のケア、精神的な支援も必要であると思った。

最近ではメディアでの情報が減っており、日本全体では震災が薄れてきたと感じる。しかし現地のボランティアセンターに行くと一般のボランティアが多くいて、良い意味で驚かされた。被災した家屋にあった軽トラにも「寄贈日本赤十字社」と書いてあり、思ったより支援が行われている印象を受けた。

これまで募金をして何かをしている気になっていたが、実際のところそれが現地で復興に繋がったかよく分からなかった。片づけが進んでいない実情を見ると、お金ではなく、人材の大切さを改めて認識した。

○ボランティア活動について

大勢が協力すればすごい力になるのだと実感した。同時に、今後も人材を派遣するボランティアが必要であると感じた。

今回初めてボランティアに参加して、片づけをした家の家主さんに「涙が出るほど嬉しい」と言ってくれた時に、この活動ができて本当に良かったと思った。

その家で過ごした日々を何も知らない人たちが、思い出の品をごみ袋に詰めていくのを見た家主の方たちはつらかったと思う。被災していない私たちが本気で被災者の気持ちを理解するのは無理だと思った。それでも、ボランティアの需要があり、行った側も震災現状について学べるなら、何もしないよりは行動した方が絶対に良いと思う。

ボランティアをするためにも、たくさんの方が動いていたと知った。千葉大側のスタッフの方々や、現地のボランティアセンターの方々、たくさんの方のおかげでスムーズに活動することができた。

～この企画を通して～

「ボランティアに興味はあるが、様々な不安から行動に移せない」という学生は多数います。このボランティアツアーは、他の団体を通して行う震災ボランティアより遥かに安価であり、また安心して参加することができるため、学生がボランティアに関わる非常に良いきっかけになっています。

また、震災はあらゆる社会問題（教育・福祉・環境等）にリンクしています。東北ボランティアツアーは、参加した学生に震災を身近に感じてもらうとともに、こうした社会問題（ひいては国政等）に関心をもってもらいたいと思っています。

職員の方々や現地のボランティアセンターの方々のおかげで、充実した活動を行うことが出来ました。参加者にとって非常に貴重な体験となったことと思います。また我々学生スタッフも企画・運営の一端を担い、良い経験をさせていただきました。今回のツアーを実行できたことに感謝し、今後も積極的に活動していきたいと思っています。（学生スタッフより）

千葉県在住浪江町民の支援

1. 浪江町の基本情報

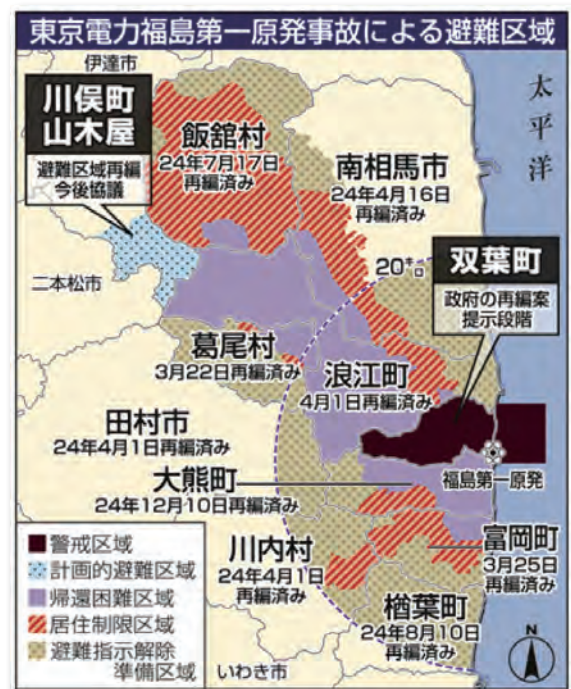
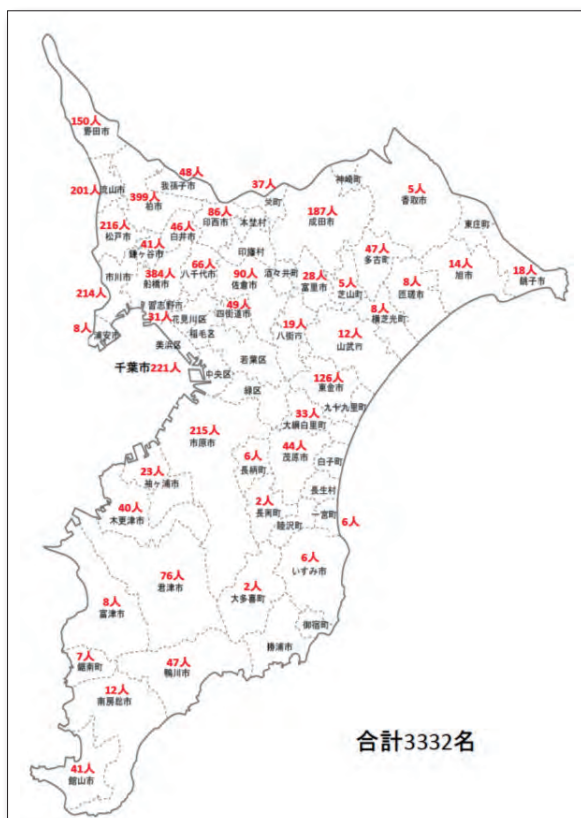
人口：19402 人（震災前 21434 人）

面積：223.10km

震災直後、死者449名、全壊637棟、半壊124棟の被害がありました。

福島県浪江町は福島第一原発の影響で震災後警戒区域に指定され、全住民が避難を余儀なくされました。

平成25年3月に警戒区域の見直しはされましたが、一部地域は帰宅困難区域に指定されいまだに居住できる状態ではありません。



出典：福島民報社(2014.2.19)
http://www.minpo.jp/pub/topics/jishin2011/2013/04/post_6961.html

福島県から千葉県に避難されている方は平成26年1月31日現在で3962名です。

2013年3月11日『忘れない3.11』

平成25年3月11日
参加者：学生・教職員 数名
場 所：千葉市中央公園

震災関連の活動を行ってきた各団体が
展示などを行いました。
千葉大学もブースを設け活動紹介のパ
ネルや写真を展示しました。



浪江町の有名な焼きそば「浪江焼きそ
ば」の販売を行った団体もありました。
買った人はみな美味しそうに食べてい
ました。

地震発生と同時刻、その場にいた全員
で黙とうを捧げました。

日々、震災のことを思い出すことは少
なくなってしまうがちですが、このよう
な企画に参加し今一度考えなおすことが
大切なのだと思いました。



東日本大震災応援プロジェクト 「縁joy・東北」 in 千葉県

平成25年11月16日
参加者：学生5名
場 所：マザー牧場園

千葉県内交流サロンを通じて集まった、
現在は千葉県に住む東北の方々がマ
ザー牧場で交流し、語り合いました。



学生スタッフは被災元ごとの歓談の記
録係として参加しました。

被災者の現状や将来に対する不安など
の貴重なお話を聞き、ボランティア活動
を継続する大切さを学びました。



大学祭企画「3.11を想う」

平成25年11月2日～3日
場 所：総合学生支援センター

千葉大学祭にて、東日本大震災のことを風化させず、来場者に改めて震災について考える機会を持ってもらいたい、という目的の下、東日本大震災に関する展示・講演会、物産展を企画しました。

講演会

講演

「前に進みたい！～震災から2年半、
みんなが知らない原発被災者の今・・・～」



講演者

福島県浪江町避難者佐倉市在住

亀田 玲子様

福島県浪江町役場生活支援課職員

鎌田 典太郎様

生活支援課千葉県駐在復興支援員

井戸川 定義様

講演

「富岡小の軌跡～子供たちの目を通して見えたもの～」

講演者

富岡町立富岡第一第二小学校

武内 雅之様

鈴木 博様



展 示

- ①福島民報社パネル
- ②浪江町こころ通信
- ③ボランティアツアー
活動報告写真
- ④福島県富岡町活動報告



①



②



④

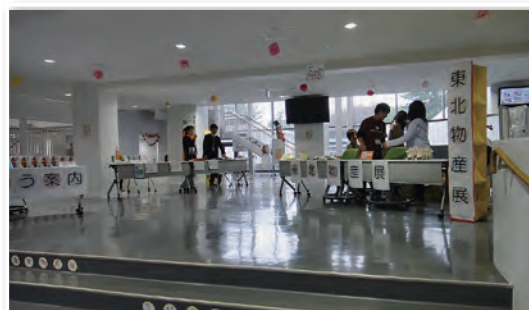


③

物産展

笹かまぼこやゆべし、ままだおるなど、東北地方の名産品を販売しました。

また、NPOクラブの方々をお招きし、福島県浪江町の仮設住宅で女性の方々が手作りされた小物を販売しました。



～来場者の感想～

- ・ 福島の実状を忘れないでください。福島県に住む幼稚園教諭です。保護者も園児もまだまだ不安の中にいます。
- ・ ボランティア活動の様子を写真で見て津波で流されたものがこんなに沢山あるとは思いませんでした。まだ完全に復興しきってはいないので、何か私にもできることがあるのではないかと思います。
- ・ 「3, 11」のことは忙しい日常、遠く離れた場所にいることなど記憶から遠のいていく日々でした。この展示を拝見して今もまだ困難を抱え生活している人が多数いることにあらためて気づかされました。自分たちに今できることは何なのだろう…心がさわぐ展示でした。
- ・ 「3, 11」は忘れてはならないということをあらためて感じさせられました。何が大切なのかいつも考えています。
- ・ 改めて写真や、先生方の話を聞くと、何かつぎつけられるものがありました。一歩進むということは1つ失うというのがひびきました。・・・等々

講演を振り返って ～温かい人の心に感謝～

富岡第一小学校 鈴木 博
富岡第二小学校 武内 雅之

前任の二人の校長が千葉大学出身だったこともあり、遊具の支援をスタートに、植物工場の設置、心のケアのプログラム、豆まき集会や運動会等での交流等、震災以降千葉大学には、多大なご支援をいただき、深く感謝しております。子どもたちも職員もご支援いただく対象というよりも、子どもたちを育てる仲間として感じております。

こうした中、千葉大学の学祭での講演依頼が舞い込んできました。

現在の学校の様子は、校舎も工場の管理棟を利用している状態、体育館や特別教室もまだ備わっていない状況、さらには富岡町に戻れる見通しも全くない状況です。まだまだ学校の様子をご報告できる段階ではないと感じてはいましたが、千葉県はもちろん、全国に避難している富岡第一小学校・富岡第二小学校の仲間たちに、避難先でがんばる子どもたちの様子を少しでも発信できればという思いで引き受けさせていただきました。

何をどんなふうに伝えればいいのか迷いもありましたが、「富岡の軌跡～子どもたちを通して見えたもの～」と題し、避難の様子や現在の学校の様子、そして子どもたちの元気に活動する様子を少しでも伝えることができればとの思いで準備を進めました。

いよいよ、学祭当日、千葉大学の学生や学祭に来た一般の方々の前で講演が始まりました。屋上から撮影した津波の写真に驚きを隠せない方、子どもたちの活動の写真にほほえんでくださる方、避難の様子や現在の学校の状況に涙を流してくださる方、決して反応を気にしていただけてはいませんが、聞いてくださる方々の思いが、発表する私たちにひしひしと伝わってきました。講演後のアンケートや感想は、地震への恐怖や原発対応への怒り、今後への期待や何かできることはないかという思いなど、様々なものでした。中でも、「明日の希望に向かってともに歩いて行きましょう。」「富岡の学校がこれからも続いていくこと心から願っています。」「大変な中ですが、子どもたちのことをよろしく願います。」、こうした心温まる励ましの声は、子どもたちや私たち職員の大きな力となったことはいまでもありません。私たちが、この講演で伝えたかったことは、地震や津波の悲惨さではなく、こうした中でも明るくがんばる子どもたちがいるということ、そして、その支えとなった多くの方々への感謝の思いでした。千葉大学の企画運営と、聴いてくださったみなさまの温かい思いのおかげで、この二つの思いをしっかりと伝えることができました。

講演後もほぼ変化のない状況、さらに、ふるさと「富岡」を知らない子どもたち、保護者の仕事の関係による児童数のさらなる減少、教職員の異動など、新たな課題も見えてきています。しかし、今後も子どもたちの明るい笑顔のために、私たち職員一同、子どもたちの心のケアを柱として、夢や希望を持てる子どもたちを育てていきたいと思えます。今回、このような機会を与えてくださった千葉大学をはじめ関係者各位、そして、講演をお聴きくださった多くの方々に深く感謝申し上げます。

佐倉市在住 亀田 玲子様

昨日の大学祭に際しては、皆様方のお世話になりまして、東日本大震災、原子力発電所の事故の当事者としてお話しさせていただく機会をいただきまして感謝しております。

大学祭のイベントとして、震災を忘れない、前進する東北地方・福島を首都圏の方々に伝える事ができたことは微力ながらも、有意義なことと思います。

時間がたつとともに忘れられてしまう未曾有の大震災、特に放射能被害の被災地は、3年がたつというのに、まだまだ「復興」とは名ばかりです。

広域に及ぶ放射能の被害は、多くの人達、自然、環境に長いによって、広く世界中にゆきわたり、子や孫へ甚大な影響を及ぼす事は、少しばかりの心配ではありません。

開催当日は、天候の悪い中、会場に足を運んでくださった方々に、新聞・マスコミ等の報道と被害者の話との温度差があると気がついていただければと感じました。

千葉大生の方々も、これからの地球環境、原子力発電、自然エネルギーを学ばれて、その業界で従事される方も多いと思いますが、福島原子力発電所の事故は決して無駄にならないよう後世残す、たくさんの情報をいかして社会へ貢献されることを願います。

最後になりましたが、皆様方のさらなるご健康、ご活躍を、お祈り申し上げます。

その他の支援センター年間活動紹介



その他の支援センターの活動

2013年

4月 合同説明会

『ふれあいの環』の5団体合同で新入生向けの説明会を行いました。
各団体で協力し、多くの新入生に説明を聞いてもらうことができました。



5月 ボランティア交流会

ボランティアをしたいけど何をしたらよいか分からない、どんなボランティアがあるのか知りたい、といった学生向けに、ボランティア経験者を集め経験談を話してもらいました。

7月 校内清掃活動

参加者:学生約10名

学生数名を集め校内の清掃を行いました。普段自分たちの代わりに清掃を行ってくださる方への感謝を改めて感じました。



11月 全学FD

海外ボランティアの経験がある学生3名をパネラーとし、学校での勉強が海外で生きた体験などを話していました。



12月14日 千葉県社協セミナー

参加者:学生数名

千葉県内の学生や社会福祉協議会の職員が集まり、大学生のボランティア活動への参加を促進する方法などを考えました。他大学のボランティアに関する取り組みの話を聞き、刺激を受けました。

2014年

1月25日 花見川区区民対話会

参加者:学生5名

千葉市花見川区で地域防災について考える「区民対話会」に参加しました。

災害発生時の対応や避難所で必要となるものなどについての話し合いでした。



海外ボランティア IN マレーシア

千葉大学法経学部総合政策学科 2年 山倉 優斗

海外ボランティア IN マレーシア

千葉大学法経学部総合政策学科2年山倉優斗

本日の目次

1. マレーシアに行って何をしたのか
2. ボランティアを知った経緯・参加動機
3. 参加して何を感じたか
4. 今後どう生かすか
5. 注意してほしいこと
6. 最後に

本題の前に

海外ボランティアって、
そもそも行くべきですか？

考えてみてください。

本日の目次

1. マレーシアに行って何をしたのか
2. ボランティアを知った経緯・参加動機
3. 参加して何を感じたか
4. 今後どう生かすか
5. 注意してほしいこと
6. 最後に

1. マレーシアに行って何をしたのか



NPO法人 CFF
caring for the future foundation japan



マレーシア・ワークキャンプ
あなたも誰かの“帰る家”になりませんか？

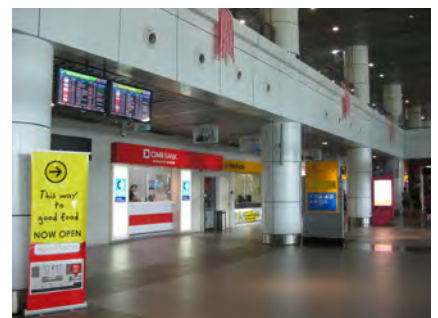


1. マレーシアに行って何をしたのか

期間: 9/1～9/14

1日の夜

⇒ 出国



1. マレーシアに行って何をしたのか

4日: CFFに合流



1. マレーシアに行って何をしたのか

7日午後～8日午前

ホームステイ



1. マレーシアに行って何をしたのか

14日: 帰国

本日の目次

1. マレーシアに行って何をしたのか
2. ボランティアを知った経緯・参加動機
3. 参加して何を感じたか
4. 今後どう生かすか
5. 注意してほしいこと
6. 最後に

2. ボランティアを知った経緯・参加動機



本日の目次

1. マレーシアに行って何をしたのか
2. ボランティアを知った経緯・参加動機
3. 参加して何を感じたか
4. 今後どう生かすか
5. 注意してほしいこと
6. 最後に



3. 参加して何を感じたか

2. 語学力の差

みなさんは何年間

英語を勉強してきましたか？

みなさんはどれくらい外国の人と

会話を楽しめますか？



本日の目次

1. マレーシアに行って何をしたのか
2. ボランティアを知った経緯・参加動機
3. 参加して何を感じたか
4. 今後どう生かすか
5. 注意してほしいこと
6. 最後に

4. 今後どう生かすか

1. 文化を尊重する
2. 英語の重要性

本日の目次

1. マレーシアに行って何をしたのか
2. ボランティアを知った経緯・参加動機
3. 参加して何を感じたか
4. 今後どう生かすか
5. 注意してほしいこと
6. 最後に

5. 注意してほしいこと

最大の失敗...

6. 最後に



サンフランシスコでの ボランティア体験



田中 智之
2013.11.20(Wed)
16:30~18:00

講演内容

- 1.自己紹介
- 2.ボランティアについて
- 3.現地での生活について
- 4.質疑応答



自己紹介



氏名
田中智之 / Tomoyuki Tanaka
所属
理学部数学・情報数理学科2年
趣味
読書、食べ歩き
好きな食べ物
カレー、ラーメン、サラダ
出身地
栃木県鹿沼市

その前に、 サンフランシスコって どこ？



ボランティア内容

- ・物販による資金調達
- ・貧困層への支援
- ・現地高校生との交流
- ・住宅街での植樹活動



貧困層への支援

活動場所
サンフランシスコ市、アラメダ郡
活動内容
・フードバンクでのパッキング
・ホームレスの方への食事の配給

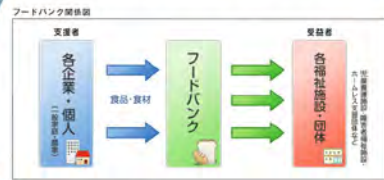


バイエリアとは



- ・アメリカで最も自由で革新的な街
- ・住む人々の多様性
- ・シリコンバレーとIT革命
- ・ヒッピー文化
- ・人種、性、年齢、障害者への差別をなくす運動

フードバンクとは



※ 豊田市産物IPより
http://www.maf.go.jp/joshokusan/recycle/soku_losu/foodbank/

住宅街での植樹活動

活動場所
 サンフランシスコ市
 活動内容
 街路での植樹



現地での生活



- ・コンビニが少ない
- ・トイレを設置しているお店が少ない
- ・ゴミ箱が多い
- ・一食にかかるお金は日本と同じくらい

ご清聴ありがとうございました！



good!ワークキャンプ説明会 in千葉大

工学部画像科学科3年 藤井 大祐

good!とは？

- 若者のきっかけづくりを応援するNPO法人
- 国内外でボランティアワークキャンプを実施
- 参加者は中学生～大学生、社会人など幅広い世代や経歴を持った若者たち

春休みの予定は 決まりましたか？

ワークキャンプとは？

- #キャンプ
- 国内外様々な地域で共同生活やホームステイをしながら、その場所が必要としているワークを行なう。
- 現地の人ありきなので、ワーク内容は地域によって異なる。

今日の流れ

- あいさつ
- 概要説明
- 千葉大参加者による体験談
- DVD上映
- 質問受付

2014年春キャンプ

■タイ山岳少数民族ワークキャンプ

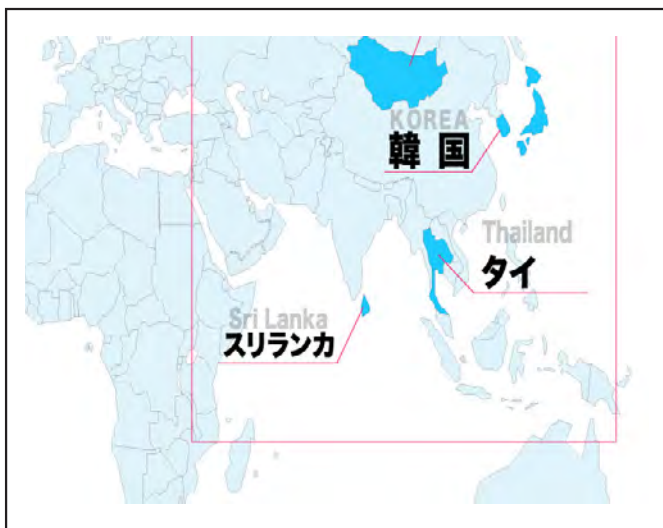
2013年8月6日（火）～8月19日（月）

■日韓友好交流ワークキャンプ

2013年8月12日（月）～8月23日（金）

■スリランカワークキャンプ

2013年8月29日（木）～9月11日（水）



スリランカキャンプ ～スリランカにもうひとつの家族をつくろう～

- ・ジャングルの村でホームステイ
- ・村人とともに、井戸掘りや学校づくりのボランティア
- ・豊かな自然と壮大な風景、家族の優しさもキャンプの魅力



韓国キャンプ～韓国に心の友をつくる旅～

- ・韓国の田舎で農作業など村人のお手伝い
- ・日韓の若者が寝食を共にし、昼はガッツリ働きます
- ・文化交流では韓国の歌や太鼓がマスターできる！

good!ワークキャンプの特徴

- 一生モノの仲間ができる！
- 一人旅やパックツアーではできない体験がいっぱい！
- 初めてでも大丈夫
- リアルなお金の話。



タイキャンプ～山岳少数民族の村～

- ・竹づくりの高床式住居でホームステイ
- ・精霊信仰の残る素朴な山暮らしを体験
- ・ゾウにのって、ジャングルトレッキング

体験談







ありがとうございました！

■ タイ山岳少数民族ワークキャンプ

3月23日（火）～3月6日（月）

■ 日韓友好交流ワークキャンプ

夏休みのみ

■ スリランカワークキャンプ

3月6日（木）～3月19日（水）

★★★申し込みはgood!のHPまで★★

<http://www.good.or.jp/>

詳しい説明は工学部画像科学科3年 藤井 大祐へ

aaka2717@chiba-u.jp

3年 野村浩一
のほろろと
ありがた
デスに
ホメ
ホメ

1年
おにさん
おねえさんか
くれをまて
くれてありが
とう。

1年
うんどうかい
にいろいそか
んがえてくれ
てありがとう

1年
お礼をたくさん
おしてくれて
ありがとう
ございました。

3年

[illegible]

3年

雪あそびの
会
豆まき
で
は
ま
る
た
ら
ば
あ
そ
び

ちはおは
あ。さう
いっせ
へんて
れどが
とろて
ます

3年
豆まき委員会
うんとつ会の行事
お世古になりに
たにの恵り出されず

[illegible]

4年

学校の行
かあるとき
いつも来てく
ありがとう
デズニール
よろしくおね

A group of approximately 15 people, including students and adults, are posing for a group photo in a school hallway. They are standing in front of a set of stairs. The hallway has a dark ceiling with fluorescent lights and a tiled floor. The group is diverse in age and appearance, and they are all smiling at the camera.

[illegible]

4年
行事分
ある度におれ
来下りておれ
た世にござい
かよいく源

A group of about 15 children and a few adults are posing for a photo in a snowy field. They are dressed in winter clothing like coats, hats, and scarves. Some are holding snow globes or snow shovels. The background is a snowy landscape with some trees.

A group of about eight children are standing in a snowy field. They are wearing various winter coats, hats, and scarves. One child in the center is wearing a blue jacket with 'SAVING PRIVATE RYAN' written on it. The ground is covered in snow with some footprints. The background is dark and indistinct.

年

富岡第一・第二小学校
全校生より

5年

みなさんいつもお世話
なになってます。デ
イニランドがとて
も楽しみです。この
前は雪遊び。お花
見。お祭り。お祭り。

富岡第

第二小

学校
校生より

5年
♡ この前の雪遊びは、お世話になりました。豆まか会も毎年お世話になっています。これからもうしくも原賀します。

5年

千葉大学の
みなさん、
卒業とか
おめでとう
なにかして
あげたい
かという
ことが
あります。

[illegible]

5年
1月31日
しきたり遊び
電卓戦い楽しがた
です。たし算計算
おもしろい
かたし

5年

毎年運動会
などの行事の時
来てくださる
が、今年は
お休みのよう

5年

リ花に青
アロハに
を花に
まき

5年

11つも、
目まき集会や
連戦大会の時に、
来てくれたあひだどう
きい、いっしょにがんばり
よろしくおつかい
合い

5年
運動会や
豆餅作りで
11月3とおせち
になりました。一
いでは、会
して、そのし

6年

行事がある
と来てくれた
十番大のおなご
人と会ってうれし
たで、私も大団
なたら十番、大団

6年

ハワイアンズ、豆焼
集会、たのびた集会など
様々行事、お世話は
なりまし。今日までの
にたくさん思い出を絶
たれませんが、帰る時の

6年

今までありがとう
とうございまいに
きょとにはばん
遊んで来びたです
わたしとん遊べた
いふと思ひました
本当にありがとう

6年

今年
今日はお天気が
たのしかった
もう秋のせい
じいちゃん
おねえちゃん

年

約二年前一斉に
運動会や夏ま
集会をやめて楽
になった。时会会な
い。おどろかぬ。いつか
終るかな。

雪台戦の時は、
大変お世話になりました。
デズーランドの行事
で、大塚のお兄さんお姉さん
とお別れです。

6年

千葉大学のみな
さんには、今まで、
いろんな行事でお世
話になりました。本当に
良い思い出になりました。

平成25年度 千葉大学ボランティア活動状況

主な活動場所		主 な 活 動 内 容
岩手県	陸 前 高 田 市	住宅清掃
宮城県	名 取 市	海岸部での遺留品や行方不明者の捜索など
	山 元 町	農業支援など
	石 巻 市	仮設商店街・仮設住宅の緑化プロジェクト
	南 三 陸 町	現地でのイベント運営・補助など
福島県	浪 江 町	海岸部での遺留品や行方不明者の捜索など
	三春町・田村市	富岡町立富岡第一・第二小学校の運動会支援
	三 春 町	富岡町立富岡第一・第二小学校の学習支援
	郡 山 市	富岡町主催のイベント運営・補助など
	南 相 馬 市	「千葉大学ボランティアツアー」としての現地での活動
	猪 苗 代 町	富岡町立富岡第一・第二小学校の学校行事支援
東京都	目 黒 区	東京工業大学での被災地写真洗浄活動
千葉県	船 橋 市	児童養護施設での交流
	習 志 野 市	児童養護施設での交流
	浦 安 市	富岡町立富岡第一・第二小学校の児童を東京ディズニーランドへ招待
福井県	福 井 市	農業支援
富山県	富 山 市	農業支援
アメリカ	サンフランシスコ	NPO ボランティア支援、難民救援、技術援助など
マレーシア		難民援助、技術援助、食糧援助など
インドネシア		技術援助、食糧援助など
スリランカ		技術援助、食糧援助など

あとがき ―東日本大震災から3年を経て―

千葉大学ボランティア活動支援センター長 山内 正 平

2011年3月11日から3年がたちました。震災直後に現在の千葉大学ボランティア活動支援センターが立ち上がって3年、この報告書が3冊目になります。

この間に、センターでは、被災地支援ボランティアツアーを4回行い、多くの学生が参加してくれました。また、活動の柱として、2011年の秋から福島県富岡町の富岡第一・第二小学校（現在は三春町に仮校舎）の児童との交流が始まり、現在も続けています。さらに2013年の『忘れない3.11』以来、千葉県へ避難しておられる浪江町民の方を支援されている浪江町役場の千葉県駐在生活支援員（NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ内）の方々のお手伝いをさせていただいています。

こうした活動が次第に根付き、千葉県内の社会福祉協議会の方々との交流も深まり、現在ではセンターの活動や学生スタッフとしての思いを地域の方々に報告させていただく機会も多くなりました。同時に、学内のFD研修会やその他のセミナー等でも、震災ボランティアだけでなく、海外ボランティアについて、学生たち自らが自己成長をふり返りつつ、熱い思いを語っています。

昨年度の報告の「あとがき」で、学生たち自らが発信して社会とかかわりをつくる力の不足を指摘しましたが、この1年間で学生スタッフは個々に大きく成長したと思っています。なによりも学生たちが自分たちの判断で行動することが多くなったのが成長の証しです。

正直言えば、この3年間を通して、学生スタッフ内部の組織づくりがうまくいったわけではありません。1年目は気持ちの上での昂揚があって、多くの学生がセンターの活動に関わってくれましたが、2年目になるとそれぞれの都合もあって、活動を継続する学生スタッフ数が少なくなり、センターの運営を少し心配するような時期もありましたが、根気強く活動を継続してくれた学生たちのがんばりで現在は充実した活動を行うことができます。

そうした経緯もあり、この3年間で学生スタッフと職員との相互の信頼感が増し、距離がたいへん近くなったと感じます。

大学の教学マネジメントにおける学生の参画は世界的にも大きな課題になっていますが、その前提になるのは学生との信頼関係です。大学が学生たちの成長を支援するインキュベーターとして機能する大事な事例がこのボランティア活動支援センターだと自負しています。

これまで千葉大学ボランティア活動支援センターを支えてくださったすべての方々に感謝すると同時に、これからも学生スタッフが自分たちの大切な居場所としてこのボランティア活動支援センターを大事にしてくれることを願っています。

編集スタッフ

ボランティア活動支援センター長 山内正平

学生スタッフ 一同

学務部学生支援課

発効日 平成26年3月

発行者 千葉大学学務部学生支援課・千葉大学ボランティア活動支援センター

〒263-8522

千葉市稲毛区弥生町 1-33

043-251-1111 (代)
